

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：87106

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23240119

研究課題名(和文)九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設

研究課題名(英文)Creation of the basis of research for the conservation and utilization of foreign exchange cultural properties found in Kyushu Island

研究代表者

伊藤 嘉章 (ITO, Yoshiaki)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部・研究員

研究者番号：80213099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 37,100,000円

研究成果の概要(和文)：外来文化の受容と展開における先進性や辺境性を示す文化財を対外交流文化財として位置づけた。私達は東西南北4つの方向から九州に流入した文化の中から代表的な事象を選び、北ルート(中国大陸との交流)および西ルート(東南アジアとヨーロッパとの交流)を中心に調査した。北ルートの対馬・壱岐・福岡・佐賀における朝鮮半島・中国大陸の文化財を調査した。また、西ルートの長崎・佐賀・福岡における東南アジア・西洋地域の文化財を調査した。さらに、文化財を九州国立博物館に移動して大型X線CT、精密三次元計測機、高精細大型スキャナなどのデジタル計測機器を使って科学調査を実施することによって新たなデジタルアーカイブを構築した。

研究成果の概要(英文)：Our research defined foreign exchange cultural properties as an artifact in which the spirit of innovation and nature of frontier is reflected through the exchange of foreign cultures. Among the four cardinal directions, we focused on the northern route(exchange with continental China) and the western route (exchange with Southeast Asia and Europe). For the northern route, we investigated cultural properties originating in China and Korea found in Tsushima and Iki Islands, as well as Fukuoka and Saga prefectures. For the western route, we investigated cultural properties of Southeast Asia and Europe found in Nagasaki, Saga, and Fukuoka prefectures. Our research team brought these artifacts to Kyushu National Museum for detailed analysis using equipment including a X-ray CT Scan, a precision three-dimensional measurement machine, and a high definition large-sized scanner. Using the results of the analysis, our team built a new digital archive of these cultural properties.

研究分野：博物館学

 キーワード：対外交流文化財 九州 大陸との交流 アジア・ヨーロッパとの交流 X線CT 三次元計測 高精細  
 大型スキャナ デジタルアーカイブ

## 1. 研究開始当初の背景

九州を一つの地域としてとらえ、東アジア世界におけるコンパスの回転軸として見ることで、歴史の新しい視点や九州独自の文化展開を新たに構築することが可能となる。歴史的に見て九州は日本列島の窓口として世界との対外交流に積極的に関与する役割を担ってきた。そのため九州各地には対外交流に関連する文化財が多く残されている。しかしながら、各地の文化財は保存も活用も比較研究もされないまま、各地の寺社や博物館・資料館に保管されているのが現状である。本研究では、「日本文化の形成をアジアの視点から見る」という九州国立博物館の基本コンセプトを軸として文化交流に関連する文化財を展示・収集すると共に、文化交流に関する研究を進めてきた。

九州は、その地政学的特質からアジア大陸や西洋の技術をいち早く受け入れてきた。稲作文化に代表されるように、前代の文化と融合させた新しい文化を産み出して、さらに日本列島へと広がる原動力の役目を果たした。こうして日本の基層文化を替えると同時に、古代国家成立の機運をもたらした。このような外来文化の受容と展開における先進性が九州の歴史的な特質といえる。

九州の文化的特質は四方の海を通じて外と繋がっており、それぞれの地域が主体となる対外交流の歴史として捉えられる。さらに、地理的にアジアに近い九州も、日本列島では西端に位置する。そのため古代王権が大和に誕生してからは、有事にはその防衛の拠点として位置づけられた。九州の特質は、この先進性と辺境性が交錯し、同時に各地で花開いた文化にあるといえることができる。

## 2. 研究の目的

九州はその地政学的特質から日本列島の窓口としてアジアや西洋の文化や技術をいち早く受け入れてきた。そのため、九州には対外交流に関連する文化財が多く残されて

いる。本研究では、九州およびその周辺諸国・地域に所在する対外交流に係る文化財を対象とする。九州島に東西南北4つの方向から流入した文化の中から代表的な事象を選んで調査を展開する。本研究期間内には、特に中国・朝鮮半島からの北ルートおよび西洋・東南アジアからの西ルートを重点に調査する。調査は、各地の博物館・教育委員会等と協力して調査対象を厳選し、文化財を九州国立博物館に移動して、大型X線CT、3Dスキャナ(精密三次元計測機)、3Dプリンタ、高精細大型スキャナなどの最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査を実施する。この科学調査の結果をふまえて、改めて学際的な研究チームによる実物調査を実施することにより、これまでになく高精度の情報を網羅したデジタルアーカイブを新しい博物館情報の研究基盤とする。さらに、この研究成果をもとに博物館における展示・映像として情報をアウトプットすることによって、一般市民に向けて研究成果を還元する。

## 3. 研究の方法

九州は、その地政学的特質からアジア大陸や西洋の技術をいち早く受け入れてきた。稲作文化に代表されるように、前代の文化と融合させた新しい文化を産み出して、さらに日本列島へと広がる原動力の役目を果たした。こうして日本の基層文化を替えると同時に、古代国家成立の機運をもたらした。このような外来文化の受容と展開における先進性が九州の歴史的な特質といえる。

九州の文化的特質は四方の海を通じて外と繋がっており、それぞれの地域が主体となる対外交流の歴史として捉えられる。さらに、地理的にアジアに近い九州も、日本列島では西端に位置する。そのため古代王権が大和に誕生してからは、有事にはその防衛の拠点として位置づけられた。

九州の特質は、この先進性と辺境性が交錯

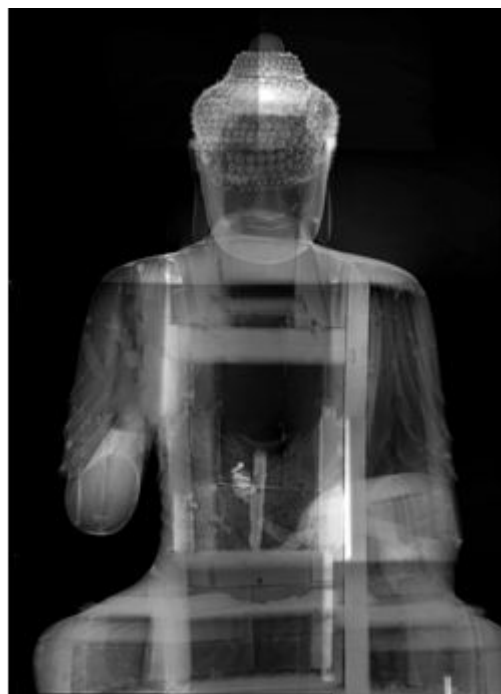
し、同時に各地で花開いた文化にあるということが出来る。このように、九州の特質とも言える外来文化の受容と展開における先進性や辺境性を示す文化財を対外交流文化財として位置づけ、東西南北4つの方向から流入した文化の中から代表的な事象を選んで調査を展開した。北ルート（古代を中心とする大陸との交流）および西ルート（中世・近世を中心とするアジア・ヨーロッパとの交流）を中心に調査を展開した。北ルートの起点となった対馬・壱岐・福岡・佐賀および朝鮮半島・中国大陸の文化財、西ルートの中心となった長崎・佐賀・福岡と中国・東南アジア・西洋地域の文化財を中心に地元の教育委員会や博物館と協力しながら実物調査を実施した。各地で現地調査した文化財を九州国立博物館に移動して、大型X線CT、精密三次元計測機、高精細大型スキャナなどの最新鋭のデジタル計測機器を活用した科学調査と文化財の健康診断調査を実施した。さらに科学調査の結果をふまえた実物調査を実施することにより、新たな研究基盤となるデジタルアーカイブを構築した。また海外の研究者とも情報を提供して情報の共有化をはかった。

#### 4. 研究成果

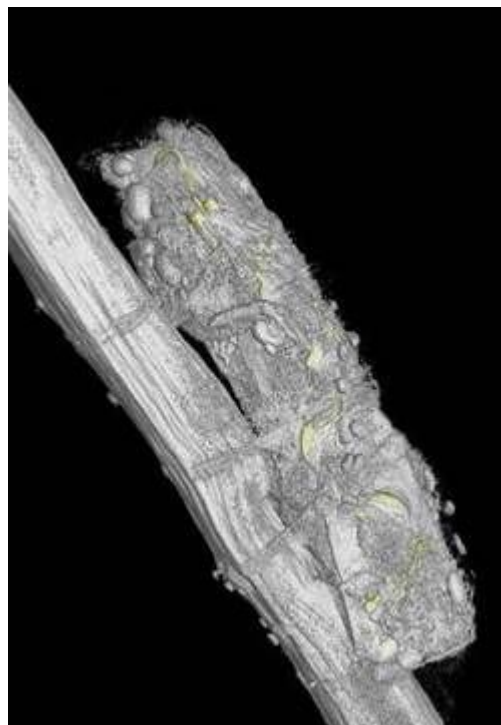
北ルートの対外交流文化財調査として対馬の文化財について調査を実施した。また、唐津湾の加唐島を調査した。加唐島は武寧王生誕地として韓国内でも周知されている。そこで、島に伝わる伝承や文化財などを調査した。西ルートの対外交流文化財調査として、黄檗宗などの中国仏教の中心地となる長崎の寺院所蔵文化財の調査を実施した。その結果、金属製の五臓をはじめとする内臓模型を納めた「生身仏」を発見した。また、長崎県松浦市鷹島の海底遺跡から発見された元寇関連遺物に関するX線CT調査を実施した。

このような寺社が所蔵している文化財を調査し、必要に応じて九州国立博物館に移動

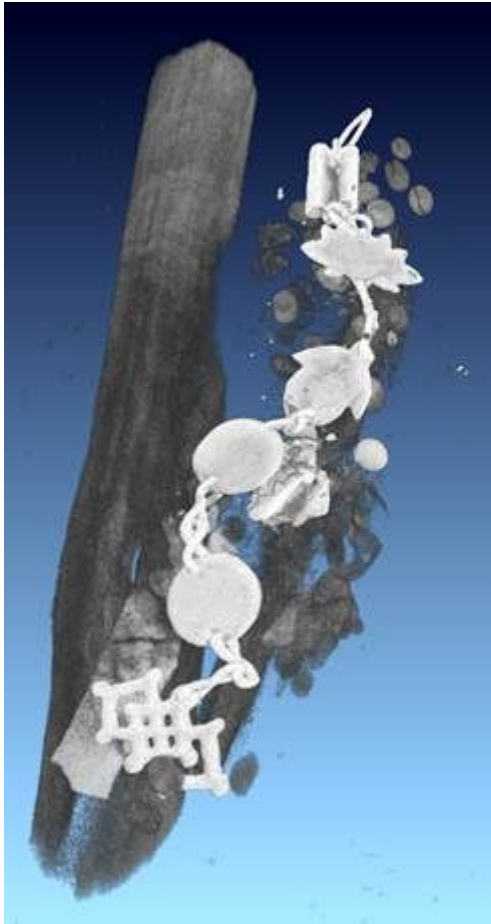
してX線CTスキャナによる構造調査を実施した。27編の論文と90点のCT・3D調査の結果を収録した調査報告書を刊行した。



釈迦如来座像のX線透過像



布に巻かれた腹部の納入品



布内部の金属製品（五臓）

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 〔雑誌論文〕（計11件）

伊藤嘉章、九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設平成 23～26 年度科学研究費助成事業基盤研究（A）研究成果報告書（課題番号 23240119）査読無、2015

畑 靖紀、メキシコのピオンボ 副王宮殿 図屏風をめぐる諸問題、東風西声 第 10 号、査読無、2015、93 - 107

今津節生・鳥越俊行・輪田慧、X 射線 CT 掃描と 3D 数据在文物的調査、研究、展示中的应用、泉屋透賞--泉屋博古館蔵青銅器投射掃描解析、2014、査読無、460 - 466

畑 靖紀、ピオンボ序説 大航海時代の日本美術に関する覚書、東風西声 第 10 号、査読無、2015、130 - 132

鷲頭 桂、伝マカオ製キリスト教主題の屏風について、東風西声 第 10 号、査読無、

2015、110 - 128

藤田励夫、安南日越外交文書集成、東風西声 第 9 号、査読無、2014、1 - 61

今津節生・鳥越俊行・輪田 慧、博物館研究における X 線 CT スキャナ活用の可能性、東風西声 第 9 号、査読無、2014、29 - 35

赤司善彦、加唐島に伝わる武寧王の生誕に関わる伝承、東風西声 第 9 号、査読無、2014、55 - 76

S. Khoirul Himmi, Tsuyoshi Yoshimura, Yoshiyuki Yanase, Masao Oya, Toshiyuki Torigoe, Setsuo Imazu

X-ray tomographic analysis of the initial structure of the royal chamber and the nest-founding behavior of the drywood termite *Incisitermes minor* Journal of Wood Science 2014,1

- ⑩ 遠藤啓介、古武雄に施される多彩な文様技法について、江戸のモダニズム 古武雄、査読無、2013、16 - 18

今津節生・中田敦之 他 4 名、鷹島沖海底遺物出土木製品へのトレハロース含浸法の適応、日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集、査読無、2012、296 - 297

### 〔学会発表〕（計4件）

鷲頭桂、屏風からピオンボへ：海を渡った日本美術、国際シンポジウム『Frames and Framings in a transdisciplinary perspective』、2015 年 03 月 08 日、学習院大学（東京都）

小林啓・加藤和歳・山崎悠郁子・森下靖士・甲斐孝司・横田義章・今津節生・輪田慧、福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土資料の X 線 CT スキャナによる調査、日本文化財科学会第 31 回大会、2014 年 07 月 05 日～2014 年 07 月 06 日、奈良教育大学（奈良県）

今津節生・岡 興造・木下陽介・範 奕瑩・塔 拉・徐 崢・李 勤・金 輝、内蒙古西夏文書の保存修復に関する日中合作事業、文化財保存修復学会第 36 回大会、2014 年 06 月 07 日～2014 年 06 月 08 日、明治大学アカデミーコモン（東京都）

今津節生、X 線 CT（3D-CT）を用いた文化財の状態調査、東アジア文化遺産保存学会、2013 年 09 月 05 日～2013 年 09 月 06 日、慶州（韓国）

## 5. 研究組織

### (1) 研究代表者

伊藤 嘉章 (ITO, Yoshiaki)  
独立行政法人国立文化財機構九州国立博  
物館・学芸部・研究員  
研究者番号：8 0 2 1 3 0 9 9

### (2) 研究分担者

三輪 嘉六 (MIWA, Karoku)  
独立行政法人国立文化財機構九州国立博  
物館・館長  
研究者番号：0 0 2 2 2 4 2 2

谷 豊信 (TANI, Toyonobu)  
独立行政法人国立文化財機構九州国立博  
物館・学芸部・研究員  
研究者番号：7 0 1 7 1 8 2 4

今津 節生 (IMAZU, Setsuo)  
独立行政法人国立文化財機構九州国立博  
物館・学芸部博物館科学課・課長  
研究者番号：5 0 2 5 0 3 7 9

岸本 圭 (KISHIMOTO, Kei)  
福岡県立アジア文化交流センター・展示  
課・主任研究員  
研究者番号：7 0 7 2 6 3 1 4

### (3) 連携研究者

赤司 善彦 (AKASHI, Yoshihiko)  
福岡県教育庁文化財保護課課長  
研究者番号：0 0 4 4 6 8 8 2